

新生奥州市 新たな未来へさあ、出発！



奥州市の概要

わたしたちの奥州市は、岩手県の内陸南部に位置し、東西に約57㎞、南北に約37㎞で、総面積は993・35平方㎞と広大で、一関市に次いで県内で2番目の面積となります。北は花巻市・北上市・西和賀町・金ケ崎町、南は一関市・平泉町、東は遠野市・住田町、西は秋田県に接しています。

ただすまいが広がっています。西部地域の焼石連峰は、ブナの原生林が多く残されています。北上川東側には、北上山地につながる田園地帯が広がり、東端部には、種山高原、阿原山高原が連なっており、地域全体が緑のあふれる豊富な自然に恵まれ、多くの先人たちが築き上げてきた歴史や文化遺産に抱かれています。

また、交通の利便性の良さを背景に、県内でも屈指の商業集積が進み、工業地帯などが整備され、伝統産業や基幹産業の事業展開が図られています。人口は、13万1272人。県内では盛岡市に次いで第2位の規模となり、県南の中核都市、副県都といえます。一般世帯数は、4万2453世帯で、増加傾向にあるものの、1世帯当たりの人口は減少傾向にあり、核家族化が進んでいます。（人口・世帯数は、平成18年2月20日現在の数値）

各総合支所も開庁

2月20日、江刺・前沢・胆沢・衣川の各総合支所でも開庁式が行われ、職員らは住民の立場に立ったサービスを行おうと気持ちを新たにしていました。

江刺総合支所

支所職員約200人が出席。飯森功江刺総合支所総務課長が「江刺の底力を発揮し、職員一丸となって頑張ろう」と開庁宣言をしました。



前沢総合支所

支所職員約70人が出席。前沢町の姉妹都市、北海道厚真町の藤原正幸町長からの祝電が披露され、五味和俊前沢診療所長らがテープカットを行いました。



胆沢総合支所

支所職員約70人が出席。山内俊夫胆沢区行政長官、胆沢保育園児の栗野ひまわりちゃん（6歳）が銘板の除幕を行いました。



衣川総合支所

支所職員や区民約80人が出席。菊地豊司総務企画課長が「住民の健康と幸せを守るよう一丸となって頑張りたい」と職員代表でありさつしました。



飛び入りの花束贈呈



伊藤節子さん（衣川区）

式典後、飛び入りで花束贈呈を行った衣川区の伊藤節子さん。思わぬプレゼントに佐々木職務執行者は、驚きながらも感激の表情を見せていました。

これまで衣川村の村長として村民をまとめ、ご尽力いただいた佐々木秀康さんが、輝かしい奥州市の市長職務執行者を務められるということで、旧村民として誇りに思い、また、頑張りたいという思いでいっぱいでした。

この気持ちを何とか伝えたいと思い、花束をお渡ししました。

これからみんながひとつになって、奥州市が住みやすいまちになっていくことを祈念しています。

奥州市誕生、本当におめでとうございます。



花束を贈る伊藤さん

青空が広がる平成18年2月20日、水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の2市2町1村が合併し、奥州市が誕生しました。

同日午前8時から、市職員や市民など約200人が参加し、奥州市役所本庁・水沢総合支所の開庁式が、同庁舎正面玄関前で華やかに行われました。

常盤小学校マーチングバンドの演奏で開式。市旗の掲揚に続き、佐々木秀康奥州市長職務執行者が「前進あるのみ。市民と行政が一体となりながら、新生奥州市13万人が先行進していきましょう」と式辞を述べました。

式辞に続き、テープカットとくす玉割りが行われ、大きな拍手に包まれながら新市の誕生を祝いました。